



華やかさに思わず笑顔

おひなさまフェスタ

2月26日、瀬戸内市消費生活問題研究協議会 邑久グループの主催で、今年で2回目となるおひなさまフェスタがリサイクルプラザ・おく（邑久町尾張）で開催されました。

市が取り組んでいるごみ30%減量に合わせ、余った布を使って会員が手作りしたつり下げびなが展示されました。

また、家庭に眠っていて飾られなくなったひなかざりも展示され、来場者の目を楽しませていました。手作り体験コーナーでは、大人も子どもも好きな柄の折り紙でひな人形を作り、桃の節句を前に健康を祈願していました。



つり下げびなを見る来場者（左上）／折り紙でひな人形を作った手作り体験コーナー（右下）

楽しく走って健康に

瀬戸内市健康マラソン大会

2月19日、瀬戸内市体育協会主催の第7回瀬戸内市健康マラソン大会が邑久スポーツ公園とその周辺で開催され、市民ランナー約800人が参加しました。一生懸命走る選手たちに、沿道から「がんばれ」「もう少し」などの声が掛かりました。

自分が宣言した時間と実際の記録との差を競うタイム宣言や、衣装を着込んでコースを回るパフォーマンスなども行われました。



沿道のコースに出る選手たち

持続的に活動する自主防災組織を

牛窓地域防災研修会



瀧本氏による講演

3月8日、「牛窓地域防災研修会」を牛窓町公民館で開催し、瀧本浩一氏（山口大学大学院准教授）が「地域防災を考える～これからやってくる自然災害に備える～」と題して講演を行いました。

瀧本氏は、東日本大震災では、津波の到達が予想されていた地域でも被害が出たことなどを挙げ、普段から家庭や地域で災害について考えておくことの重要性について話しました。また、地域で開催する行事の中に、防災事前活動や災害後に役立つ活動につながるものが多くあることを説明し、持続的に活動する自主防災組織の結成を呼び掛けました。

復興支援に対する感謝の気持ち

震災被災地から届いた紙芝居



折り紙で作られ貼り付けられた登場人物や動物（左下）／紙芝居に見入る園児たち（右上）

2月20日、福田保育園で東日本大震災の被災者から送られた紙芝居が園児らに披露されました。この紙芝居は、東日本大震災の影響で福島県会津若松市内の施設に避難していた人から、現地で復興支援に携わった岡山県職員へ送られ、岡山県から瀬戸内市で幼児期からの防災教室を行っている「とっこクラブ」へ寄贈され、読み聞かせなどに活用することになったものです。

物語「桃太郎」の登場人物や動物は一つ一つ折り紙で作られ、全24枚の紙芝居に丁寧に貼り付けられており、復興支援に対する感謝の気持ちが込められています。

いつまでもお元気で

久山文枝さんが満100歳に

3月29日、翌日満100歳を迎える久山文枝さん（邑久町百田）をお祝いに、西村公夫備前県民局健康福祉部健康福祉課長と武久顕也市長らが、入所している施設を訪問しました。

久山さんは、訪問時には眠っていましたが、前日には、お祝い訪問について、家族と元気に話をしていました。

33歳で夫を亡くし、苦勞しながら2人の子供を育てる一方で、長年に渡って奉仕活動にも励みました。趣味は編み物で、家族のセーターを次々に編んで喜ばれました。

久山さん、これからも元気で過ごしてください。



お祝い状が贈られた久山さん（中央）

図書館の役割について理解を深めました

としょかん未来ミーティング（特別編）

2月25日、中央公民館（邑久町尾張）で、としょかん未来ミーティング（特別編）を開催しました。片山善博氏（慶應義塾大学教授・前総務大臣）の講演、湯浅薫男氏（瀬戸内市地域おこし協力隊長）や邑久高等学校生徒らをパネリストとしたシンポジウムを行い、参加した市民ら約300人は地域における図書館の役割について理解を深めました。

片山氏は講演で、自身の体験や実業界での例をもとに、図書館の役割の中で、利用者の求めに応じて、必要とされる情報や資料を適切に提供する（レファレンス）役割が重要であると説明しました。



図書館の将来像を話し合ったシンポジウム（左上）／講演を行った片山氏（右下）

知っ得！情報
まちの話題
生活と環境
安全通信
健康ライフ
まなびの部屋
くらしの情報
みんなの広場